令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 1)

公の施設の名称	市営駐車場 (新尾道駅南、新尾道駅北、新尾道駅北第二、東尾道駅前)				
所在地	尾道市栗原町9350番地10、尾道市栗原町9429番地1、尾道市栗原町9429番地4、尾道市高須町4748番地8				
指定管理者	団体名	おのみちバス株式会社			
	所在地	尾道市東尾道18番地1			
指定期間	令和 3 年 4 月 1 日 ~ 令和 8 年 3 月 31 日				
選定方法	○	公募		非公募	
料金制導入区分	○	利用料金		使用料(市へ直接収納)	無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち		3 年目		
施設設置目的	駐車料金を徴収する自動車駐車場				
主な実施事業	利用料金の徴収、施設の管理及び運営、施設及び設備の維持管理				

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 利用料金	千円	66,754	60,238	66,204	25,756	60,841	28,853	68,863	41,850	54,545	49,646	54,450	
②													
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A	0	0	0	0	0
	利用料金収入	B	60,238	25,756	28,853	41,850	49,646
	自主事業収入	C	0	0	0	0	0
	その他	D	35	2	3	2	48
	収入計(A~Dの計)	E	60,273	25,758	28,856	41,852	49,694
支出	指定事業費	F	60,379	31,059	29,457	41,853	51,917
	内、人件費	G	3,375	3,115	3,753	3,808	3,885
	内、修繕費	H	458	575	858	271	66
	内、再委託料	I	4,195	4,050	4,050	4,081	5,158
	内、施設使用料	J	49,354	20,917	17,694	30,018	40,238
	自主事業費	K	0	0	0	0	0
支出計(F+K)	L	60,379	31,059	29,457	41,853	51,917	
使用料収入(市へ直接収納)	M	0	0	0	0	0	
減免金額	N	0	0	0	0	0	
事業収支	E-L	-106	-5,301	-601	-1	-2,223	-2,090
利用料金収入比率	B/E	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%	99.9%	100.0%
人件費比率	G/L	5.6%	10.0%	12.7%	9.1%	7.5%	7.1%
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率	N/*2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A	
	利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A	
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設23項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数	3	回	
	管理運営協議回数	12	回	

所見 (成果、課題等)	<p>(自己評価)</p> <p>利用台数・利用料金ともに昨年度対比で大幅な増加となりました。これは定期利用者数の維持に努め、定期利用以外の一般利用が増えた為と思われます。一般利用が増えた要因としては、JRの利用が復調し、そのことに伴う駐車場の利用自体も増加したことに加え、前年に引き続き、マツダスタジアムでの試合開催時に利用が多かった為と思われます。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の水準までの利用台数・利用料金に戻らなかった要因としては、令和5年度につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響はなくなったと思われませんが、行動様式の変化により利用者数の減少につながった為と推測されます。</p> <p>その他、修繕作業、清掃作業、剪定作業を定期的実施することにより、駐車場利用者にとって、きれいで使いやすい駐車場づくりに努めました。また、当社ホームページにて尾道市営駐車場（新尾道駅南・北・北第二・東尾道駅前）に係るページを設けていることにより、駐車場の利用方法を分かりやすく周知し、駐車場利用者の利便向上を図りました。</p>		
	<p>(所管評価)</p> <p>新型コロナウイルス感染症に伴う行動様式の変化によりコロナ禍以前の水準に戻すことはできなかったものの、定期利用者数の維持や緊急時に迅速に対応するなど、駐車場利用者にとって使用しやすい環境づくりに努めており、昨年度対比で大幅な増加になったことは評価できる。</p> <p>修繕及び管理作業についても、利用者の不便が生じないよう遅滞なく実施されており、適切な運営が行われている。</p> <p>また、新尾道駅での物産イベント開催により駐車場の利用を促す等、新幹線利用者の方に頼らない新たな需要の掘り起こしを模索している点も評価できる。</p>		
前年総合評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準：	S（優良）	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A（良好）	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B（課題含）	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C（要改善）	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S（優良）	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A（良好）	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S（優良）以外】
	B（課題含）	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S（優良）、A（良好）以外】
	C（要改善）	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S（優良）	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A（良好）	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S（優良）以外】
	B（課題含）	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S（優良）、A（良好）以外】
	C（要改善）	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 2)

公の施設の名称	尾道市営駐車場 (ベルポール、尾道駅前)				
所在地	尾道市東御所町1番19号、尾道市東御所町879番地				
指定管理者	団体名	尾道駅前都市開発株式会社			
	所在地	尾道市東御所町1-18			
指定期間	令和 3 年 4 月 1 日 ~ 令和 8 年 3 月 31 日				
選定方法		公募	○	非公募	
料金制導入区分	○	利用料金		使用料(市へ直接収納)	無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち		3 年目		
施設設置目的	尾道駅及びしまなみ交流館周辺の駐車場整備				
主な実施事業	駐車場の管理運営				

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 駐車場利用料	千円	60,495	63,602	36,300	46,217	47,300	47,605	46,130	53,886	48,900	47,359	32,350	
②													
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A	0	0	0	0	0
	利用料金収入	B	63,602	46,217	47,605	53,886	47,359
	自主事業収入	C	0	0	0	0	0
	その他	D	0	0	0	0	0
	収入計 (A~Dの計)	E	63,602	46,217	47,605	53,886	47,359
支出	指定事業費	F	60,043	46,842	48,253	53,595	47,701
	内、人件費	G	2,529	2,843	2,886	2,893	2,774
	内、修繕費	H	332	1,091	300	693	2,847
	内、再委託料	I	6,249	6,335	6,176	6,301	6,364
	内、施設使用料	J	48,005	34,033	35,800	40,261	33,145
	自主事業費	K	0	0	0	0	0
支出計 (F + K)	L	60,043	46,842	48,253	53,595	47,701	
使用料収入(市へ直接収納)	M	0	0	0	0	0	
減免金額	N	0	0	0	0	0	
事業収支	E-L	3,559	-625	-648	291	-342	
利用料金収入比率	B/E	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
人件費比率	G/L	4.2%	6.1%	6.0%	5.4%	5.8%	
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
減免金額比率	N/*2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A	
	利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A	
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設23項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	—	—
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	B	B
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	B	B
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設8項目】	B	B	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数	3	回	
	管理運営協議回数	12	回	

所見 (成果、課題等)	<p>(自己評価)</p> <p>収入は、令和6年1月14日の尾道福屋閉店に伴う割引券購入回数の半減やお客様の減少等が影響し、目標を下回った。 支出は、施設の衛生維持管理及び隣接建物入居者からの苦情対応も含めた害鳥対策の為、修繕費が大幅増額となった以外は、予算を下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場内のLED化が環境配慮や経費節減に繋がった。 ・ 車室間の区画線引き直しにより、車両1台当りの利用スペースが広がり乗降し易くなる等、お客様が安心、安全に利用できる環境に配慮した。 <p>(所管評価)</p> <p>核テナントの撤退による駐車場利用者が減少に伴い、収入が対前年比で減少しており、今後核テナントが決まらない状況が続く場合は更なる状況の悪化が予想される。</p> <p>一方で、鳥害対応や区画線の整備により利便性の向上したほか、日常的な施設管理を行うための運営体制は引き続き維持されている。</p> <p>今後は、テナント誘致に向けた活動状況について指定管理者と情報共有を図るとともに、テナント決定後の駐車場運営のあり方等について引き続き協議を行う。</p>		
	前年総合評価	A	総合評価

※評価区分

評価基準：	S (優良)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含)	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善)	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S (優良)	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S (優良)	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 3)

公の施設の名称	尾道市営駐車場 (中央、長崎)				
所在地	尾道市土生町1899-31・2579-1				
指定管理者	団体名	一般社団法人 因島観光協会			
	所在地	尾道市土生町1899-31			
指定期間	平成 31 年 4 月 1 日 ~ 令和 6 年 3 月 31 日				
選定方法	○	公募		非公募	
料金制導入区分	○	利用料金		使用料 (市へ直接収納)	無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち		5 年目		
施設設置目的	近隣の商業店舗利用者、企業勤務者の駐車場としての利用。地域の活性化のためのコミュニティ施設の利用				
主な実施事業	駐車料金の徴収、建物の維持管理。貸店舗業務				

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 施設利用料	千円	45,637	44,488	44,000	39,568	39,500	36,598	38,600	36,250	37,020	34,641	36,570	
②													
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区 分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A	0	0	0	0	0
	利用料金収入	B	44,488	39,568	36,598	36,250	34,641
	自主事業収入	C	0	0	0	0	0
	その他	D	0	0	0	0	0
	収入計 (A~Dの計)	E	44,488	39,568	36,598	36,250	34,641
支出	指定事業費	F	42,813	39,888	36,768	36,250	34,641
	内、人件費	G	14,552	14,752	14,499	15,196	15,962
	内、修繕費	H	3,065	2,344	2,872	2,662	1,744
	内、再委託料	I	4,571	4,474	4,273	4,690	4,386
	内、施設使用料	J	12,595	11,584	8,308	6,298	5,692
	自主事業費	K	0	0	0	0	0
支出計 (F + K)	L	42,813	39,888	36,768	36,250	34,641	
使用料収入 (市へ直接収納)	M	0	0	0	0	0	
減免金額	N	0	0	0	0	0	
事業収支	E-L	1,675	-320	-170	0	0	
利用料金収入比率	B/E	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
人件費比率	G/L	34.0%	37.0%	39.4%	41.9%	46.1%	
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
減免金額比率	N/*2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	B	B
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A	
	利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A	
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設23項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接客が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	B	B	
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	B	B
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	B	B
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数	3	回	
	管理運営協議回数	12	回	

所見 (成果、課題等)	<p>(自己評価)</p> <p>中央駐車場の空き賃貸事務所が埋まらないままで、大幅な収入減の状態が続いています。近隣に駐車場が増えているのと、事業所の撤退等で定期契約者の増加もなかなか難しい状況です。</p> <p>経費削減に取り組む方策として、節電に努め、内作で修繕できるところは実施しています。コミュニティ利用の促進として、イベントを計画し実施しています。</p>		
	<p>(所管評価)</p> <p>コロナ禍後もテナントが戻らないこと、周辺の空き地が駐車場化することによる競合相手の増加といった経営環境の悪化により収益が伸び悩んでいる。</p> <p>また、建物も建築から20年が経過していることから修繕を要する箇所が増えており、それも負担となっている。</p> <p>ただ、現在もテナントの誘致活動を行っているほか、別事業として実施しているイベントやレンタルサイクル事業との連携など、利用促進に向けた取り組みを行っているものと評価する。</p> <p>今後は、テナントおよび駐車場料金について、周辺の相場や駐車場の利用実態に合わせた条件に改めることも視野に入れた協議や、照明のLED化をはじめとする計画的な修繕による建物の維持費及び修繕費の圧縮に向けた取り組みを実施することで、収益構造の改善を図る。</p>		
前年総合評価	B	総合評価	B

※評価区分

評価基準：	S (優良)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含)	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善)	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S (優良)	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S (優良)	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 4)

公の施設の名称	尾道市総合福祉センター			
所在地	尾道市門田町22-5			
指定管理者	団体名	社会福祉法人尾道市社会福祉協議会		
	所在地	尾道市門田町22-5		
指定期間	令和 3 年 4 月 1 日 ~ 令和 8 年 3 月 31 日			
選定方法	公募	○	非公募	
料金制導入区分	利用料金	○	使用料(市へ直接収納)	無料施設
評価年度	指定期間	5	年のうち	3 年目
施設設置目的	児童、高齢者、障害者(児)、母子等に対して各種の福祉サービスを提供するとともに、市民に対する保健サービスを充実し、併せて市民、市民組織等の協力による福祉保健活動を助長し、もって総合的に市民の福祉と健康の増進を図るため			
主な実施事業	老人福祉センター事業、障害者福祉センター事業、母子・父子福祉センター事業、児童センター事業、保健センター事業			

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 利用人数	人	-	117,424	-	51,784	-	29,883	-	87,759	-	90,615	-	
② 利用件数	件	-	3,959	-	3,063	-	2,733	-	3,113	-	3,519	-	
③ 稼働率(件数)	%	-	48.4%	-	37.6%	-	36.6%	-	42.0%	-	47.0%	-	
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区 分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算	
収入	指定管理料	A	1,225	1,119	1,056	1,286	1,292	
	利用料金収入	B	0	0	0	0	0	
	自主事業収入	C	0	0	0	0	5	
	その他	D	0	0	0	0	0	
	収入計(A~Dの計)	E	1,225	1,119	1,056	1,286	1,292	1,692
支出	指定事業費	F	1,225	1,119	1,056	1,286	1,292	1,692
	内、人件費	G	1,176	1,070	898	1,179	1,207	1,538
	内、修繕費	H	0	0	0	0	0	0
	内、再委託料	I	0	0	0	0	0	0
	内、施設使用料	J	0	0	0	0	0	0
	自主事業費	K	0	0	0	0	0	0
支出計(F+K)	L	1,225	1,119	1,056	1,286	1,292	1,692	
使用料収入(市へ直接収納)	M	356	131	70	156	179	360	
減免金額	N	69	16	6	8	11	60	
事業収支	E-L	0	0	0	0	0	0	
利用料金収入比率	B/E	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
人件費比率	G/L	96.0%	95.6%	85.0%	91.7%	93.4%	90.9%	
使用料収入比率	M/*1	22.5%	10.5%	6.2%	10.8%	12.2%	17.5%	
減免金額比率	N/*2	16.2%	10.9%	7.9%	4.9%	5.8%	14.3%	

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設23項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数		12	回
	管理運営協議回数		6	回

所見 (成果、課題等)	(自己評価)		
	<p>児童・高齢者・障害者・母子父子等を対象に各種福祉サービスを提供し、各種ボランティア団体や町内会等が活動する場所として活用されている。新型コロナウイルス拡大防止のための利用制限、また、新型コロナウイルスに関連する事業を行うために、会館使用等が緩和されたことから、前年度と比較すると増加している。</p>		
	(所管評価)		
	<p>尾道市総合福祉センターの管理・運営に関して、仕様書等を遵守し概ね要求水準が満たされたものとなっている。また、尾道市総合福祉センターの設置目的に沿い、児童・高齢者・障害者・母子父子等を対象に各種福祉サービスの提供、会議室等の活動場所の提供を適切に行っている。</p> <p>今後も引き続き、高い水準での管理・運営を維持していくとともに、利用者にとってより良い対応を行っていくことを期待したい。</p>		
前年総合評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準：	S (優良)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含)	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善)	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S (優良)	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S (優良)	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 5)

公の施設の名称	尾道市向島福祉支援センター				
所在地	尾道市向島町5888-1				
指定管理者	団体名	社会福祉法人尾道市社会福祉協議会			
	所在地	尾道市門田町22-5			
指定期間	令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日				
選定方法	公募	○	非公募		
料金制導入区分	利用料金		使用料(市へ直接収納)	○	無料施設
評価年度	指定期間	5	年のうち	3	年目
施設設置目的	地域の福祉保健活動の拠点施設として、市民の福祉の向上と健康の増進を図るため				
主な実施事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の福祉保健活動の支援及び活動に必要な場の提供 ・地域の福祉保健活動を担う人材育成等の支援 など 				

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 利用人数	人	8,000	7,338	7,500	5,817	6,000	4,920	6,000	7,349	7,500	7,623	7,700	
② 利用件数	件	600	580	600	666	700	554	700	793	800	856	860	
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区 分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A	0	0	0	0	99
	利用料金収入	B	0	0	0	0	0
	自主事業収入	C	0	0	0	0	0
	その他	D	0	0	0	0	0
	収入計(A~Dの計)	E	0	0	0	0	99
支出	指定事業費	F	0	0	0	0	0
	内、人件費	G	0	0	0	0	0
	内、修繕費	H	0	0	0	0	0
	内、再委託料	I	0	0	0	0	0
	内、施設使用料	J	0	0	0	0	0
	自主事業費	K	0	0	0	0	0
支出計(F+K)	L	0	0	0	0	0	
使用料収入(市へ直接収納)	M	0	0	0	0	0	
減免金額	N	0	0	0	0	0	
事業収支	E-L	0	0	0	0	99	
利用料金収入比率	B/E	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
人件費比率	G/L	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
減免金額比率	N/*2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	—	—
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	—	—
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	—	—
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設20項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接客が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数		10	回
	管理運営協議回数		5	回

所見 (成果、課題等)	<p>(自己評価)</p> <p>ボランティア活動の拠点として、有効に活用することができた。また、来所される方に適切に対応するため、館内在所の組織と連携を深めた。 利用者の方は高齢者が多く、新型コロナも第5類に移行した後も、施設の利用にあたっては室内の換気をはじめ、感染症の拡大にも留意しながら、施設の適切な使用に努めた。</p>		
	<p>(所管評価)</p> <p>向島福祉支援センターの管理・運営に関して、仕様書等を遵守し概ね要求水準が満たされたものとなっている。 また、引き続き室内の換気を行うなどの感染防止策を取っており、利用者に安心して使用してもらえるような管理・運営がされている。 「利用者アンケート」について、利用者にアンケートを配布するなどの回答を促進する取組を行っており、アンケートの内容も非常に高い評価を得ている。 今後も引き続き、高い水準での管理・運営を維持していくとともに、利用者にとってより良い対応を行っていくことを期待したい。</p>		
前年総合評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準：	S (優良)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含)	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善)	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S (優良)	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S (優良)	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 6)

公の施設の名称	すばーく因島				
所在地	尾道市因島中庄町4601				
指定管理者	団体名	因島ゲートボール協会			
	所在地	尾道市因島中庄町2909			
指定期間	令和 2 年 4 月 1 日 ~ 令和 7 年 3 月 31 日				
選定方法		公募	○	非公募	
料金制導入区分	○	利用料金		使用料(市へ直接収納)	無料施設
評価年度	指定期間	5	年のうち	4	年目
施設設置目的	ゲートボールを通じて、高齢者の健康の維持を図り、併せて地域住民との世代間交流を促進し、地域支え合い及び地域福祉の向上に寄与することを目的とする				
主な実施事業	定期的なゲートボール大会の開催、施設内の清掃作業、小学校とのゲートボール交流				

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 利用延人数	人	-	9,165	-	5,093	-	4,488	-	2,506	3,000	3,052	3,200	
②													
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区 分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A	239	240	240	240	240
	利用料金収入	B	192	102	171	41	56
	自主事業収入	C	498	468	225	0	0
	その他	D	323	266	353	0	125
	収入計(A~Dの計)	E	1,252	1,076	989	281	421
支出	指定事業費	F	347	276	271	281	421
	内、人件費	G	0	0	0	0	0
	内、修繕費	H	0	0	0	40	85
	内、再委託料	I	0	0	0	0	0
	内、施設使用料	J	0	0	0	0	0
	自主事業費	K	0	0	0	0	0
支出計(F+K)	L	347	276	271	281	421	
使用料収入(市へ直接収納)	M	0	0	0	0	0	
減免金額	N	0	0	0	0	0	
事業収支	E-L	905	800	718	0	0	
利用料金収入比率	B/E	15.3%	9.5%	17.3%	14.6%	13.3%	
人件費比率	G/L	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
減免金額比率	N/*2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

施設の老朽化が進み、修繕に係る費用が増加している

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	—	—
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設22項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接客が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	B	B
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数		2	回
	管理運営協議回数		7	回

所見 (成果、課題等)	(自己評価) 施設の屋根内側が老朽化し、金具・遮熱材の落下が続いている。その他、トイレの洗浄センサーの異常が発生するなど、修繕が必要となっている。 そうした状況の中、定期的に見回りを実施し利用者に事故・怪我等がないよう取り組んでいる。		
	(所管評価) 前回指摘した口座及び通帳管理について、指摘どおり口座を分離し適切に管理するよう改善が確認された。		
前年総合評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準：	S (優良)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含)	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善)	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S (優良)	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S (優良)	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 7)

公の施設の名称	尾道市因島デイサービスセンター			
所在地	尾道市因島田熊町940番地3			
指定管理者	団体名	社会福祉法人尾道市社会福祉協議会		
	所在地	尾道市門田町22番5号		
指定期間	令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日			
選定方法	公募	○	非公募	
料金制導入区分	○	利用料金	使用料(市へ直接収納)	無料施設
評価年度	指定期間	5	年のうち	3 年目
施設設置目的	在宅の要介護高齢者に対し、通所の方法により、各種サービスを提供することによって、生活の助長、社会的孤立感の解消及び心身機能の維持向上等を図るとともに、その家族の身体的又は精神的な負担の軽減を図るため、介護保険法第7条第11項に規定する通所介護施設として、併せて在宅高齢者を対象とした介護予防を推進するため。			
主な実施事業	入浴サービス、配食サービス、日常動作訓練、介護方法の指導、その他必要なサービス			

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 利用延数	人	-	6,505	-	6,887	-	6,746	-	5,992	6,500	6,183	6,300	
②													
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区 分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A	0	0	0	0	0
	利用料金収入	B	63,207	66,144	60,735	60,052	65,688
	自主事業収入	C	0	0	0	0	0
	その他	D	28	1,151	8,271	11,000	3,390
	収入計(A~Dの計)	E	63,235	67,295	69,006	71,052	69,078
支出	指定事業費	F	68,255	68,380	69,692	71,428	68,919
	内、人件費	G	52,357	51,257	52,417	52,594	46,620
	内、修繕費	H	661	571	564	769	900
	内、再委託料	I	0	0	0	0	0
	内、施設使用料	J	2,000	2,000	2,000	2,044	2,045
	自主事業費	K	0	0	0	0	0
支出計(F+K)	L	68,255	68,380	69,692	71,428	68,919	
使用料収入(市へ直接収納)	M	0	0	0	0	0	
減免金額	N	0	0	0	0	0	
事業収支	E-L	-5,020	-1,085	-686	-376	2,709	159
利用料金収入比率	B/E	100.0%	98.3%	88.0%	84.5%	96.6%	95.1%
人件費比率	G/L	76.7%	75.0%	75.2%	73.6%	74.0%	67.6%
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率	N/*2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A	
	利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A	
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設23項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数	4	回	
	管理運営協議回数	3	回	

所見 (成果、課題等)	<p>(自己評価)</p> <p>令和5年5月より新型コロナウイルス感染症の扱いが5類に移行されましたが、介護保険、介護予防・日常生活支援総合事業においては、その性質上、利用者・職員の感染防止を最優先にして各サービスの正常化に向けて慎重に取り組みました。</p> <p>また令和6年度の介護報酬改定にむけ、虐待及び身体拘束の防止、業務継続計画に必要な研修や訓練を行い、職員の対応力を向上させるとともに必要な介護サービスを安定して提供できるよう、体制づくりを行いました。</p>		
	<p>(所管評価)</p> <p>事業所の性質上、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を講じていかななくてはならず、また利用者側にも使用控えの意識があることから利用者が伸び悩んだことはやむを得ないものとする。</p> <p>運営においても新型コロナウイルス感染症による利用者収入への影響が続いており、厳しい運営を続けつつサービスを提供していることは評価できる。</p>		
前年総合評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準：	S (優良)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含)	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善)	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S (優良)	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S (優良)	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 8)

公の施設の名称	向島漁村センター			
所在地	尾道市向島町20074-7			
指定管理者	団体名	向島町漁業協同組合		
	所在地	尾道市向島町20074-4		
指定期間	令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日			
選定方法		公募	○	非公募
料金制導入区分	○	利用料金		使用料(市へ直接収納) 無料施設
評価年度	指定期間	5	年のうち	3 年目
施設設置目的	漁村の振興と漁業者の育成並びに産業、経済及び文化の向上を図るため			
主な実施事業	向島漁村センターの管理運営。船舶免許更新手続きや漁協総会等の実施時に貸室業務を行う			

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① センター稼働日数	日	5	6	5	1	5	2	5	2	5	3	5	
② センター利用者数	人	200	212	200	15	200	52	200	105	200	122	200	
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A	0	0	0	0	0
	利用料金収入	B	7	3	3	3	10
	自主事業収入	C	0	0	0	0	0
	その他	D	193	195	173	187	190
	収入計(A~Dの計)	E	200	198	176	190	200
支出	指定事業費	F	200	198	173	187	190
	内、人件費	G	0	0	0	0	0
	内、修繕費	H	0	0	0	0	0
	内、再委託料	I	0	0	0	0	0
	内、施設使用料	J	0	0	0	0	0
	自主事業費	K	0	0	0	0	0
支出計(F+K)	L	200	198	173	187	190	
使用料収入(市へ直接収納)	M	0	0	0	0	0	
減免金額	N	13	0	3	3	3	
事業収支	E-L	0	0	3	3	10	
利用料金収入比率	B/E	3.5%	1.5%	1.7%	1.6%	5.0%	
人件費比率	G/L	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
減免金額比率	N/*2	65.0%	0.0%	50.0%	50.0%	30.0%	

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A	
	利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A	
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設23項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接客が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	—	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	B	B
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数		3	回
	管理運営協議回数		4	回

所見 (成果、課題等)	<p>(自己評価)</p> <p>令和5年度は暫く中止していた船舶免許更新講習を実施し17名での利用がありました。無料利用1回、有料利用2回、前年度 ピロティ部を利用した組合員による朝市は年50回程度開催しており、およそ1700人の来場がありました。 指定管理制度の開始当時から管理を行っており、また所在地が指定管理団体に近接した場所にある事から開館の際は適切かつ安定した管理体制を維持できていると考えています。</p>		
	<p>(所管評価)</p> <p>目標値を下回っているが、徐々にではあるが利用回数、利用人数共に増加してきている。 室内利用は目標を下回っているが、ピロティの利用率は高いものとなっている。</p>		
前年総合評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準：	S (優良)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含)	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善)	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S (優良)	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S (優良)	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 9)

公の施設の名称	向島洋らんセンター				
所在地	尾道市向島町3090番地1				
指定管理者	団体名	株式会社オーキッド向島			
	所在地	尾道市向島町3086番地			
指定期間	令和5年4月1日 ~ 令和8年3月31日				
選定方法		公募	○	非公募	
料金制導入区分	○	利用料金		使用料(市へ直接収納)	無料施設
評価年度	指定期間	3	年のうち	1	年目
施設設置目的	農業の振興及び地域の交流のための施設として設置				
主な実施事業	向島洋らんセンターの管理運営 受託事業として、施設の利用許可、施設の維持管理。自主事業として洋ランの生産・販売事業				

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 総利用者数	人	40,000	40,050	40,000	34,840	40,000	37,245	40,000	38,422	40,000	33,101	40,000	
② 自主事業収入	千円	53,000	71,168	53,000	64,219	53,000	72,311	72,000	70,966	72,000	69,695	72,000	
③ 施設使用料	千円	450	109	450	103	450	140	450	179	450	331	450	
④ 施設利用者数 (再掲)	人	4,000	1,240	4,000	780	4,000	740	4,000	1,097	4,000	1,641	4,000	
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区 分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A	6,229	6,286	6,286	6,286	6,191
	利用料金収入	B	109	103	140	179	450
	自主事業収入	C	71,168	64,219	72,311	70,966	69,695
	その他	D	69	74	81	89	74
	収入計 (A~Dの計)	E	77,575	70,682	78,818	77,520	76,291
支出	指定事業費	F	6,992	5,894	6,213	7,624	6,823
	内、人件費	G	3,435	3,171	3,171	3,171	3,171
	内、修繕費	H	72	8	45	427	141
	内、再委託料	I	865	751	889	819	852
	内、施設使用料	J	0	0	0	0	0
	自主事業費	K	74,539	60,637	64,945	69,476	69,607
支出計 (F+K)	L	81,531	66,531	71,158	77,100	76,430	
使用料収入(市へ直接収納)	M	0	0	0	0	0	
減免金額	N	0	0	0	0	0	
事業収支	E-L	-3,956	4,151	7,660	420	-139	
利用料金収入比率	B/E	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	0.4%	
人件費比率	G/L	4.2%	4.8%	4.5%	4.1%	4.1%	
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
減免金額比率	N/*2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設23項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数	6	回	
	管理運営協議回数	2	回	

所見 (成果、課題等)	<p>(自己評価)</p> <p>地域の拠点施設としての機能を高めていくために、日頃から地域住民が集まりやすい交流の場として門戸を開き、地域のコミュニティとしての活用や、災害に対する避難所としての意識高揚、さらに自主事業による地域雇用の創出に努力しています。とりわけ、自主事業の洋ラン栽培は施設のブランド化に大きく貢献しており、高品質な洋ランをイメージしたイベントの開催や施設の利用など、近年増加するサイクリストや外国人観光客も含めて地域内外の交流人口の増大に寄与しています。</p> <p>新型コロナウイルス情勢による入場者数の減少は回復しつつあります。徹底した感染対策により安心して来場いただけるよう努め、地域の信頼を得られている実感があります。</p> <p>また、施設内の植栽管理やバリアフリー化に取り組むことで、子どもから高齢者までが緑豊かな自然に囲まれて、安全安心に施設を利用出来る環境を提供し、健康で心安らぐ福祉の増進にも取り組んでいます。</p>		
	<p>(所管評価)</p> <p>受託事業については、仕様書等に沿った維持管理に努めており、概ね要求水準を満たしている。</p> <p>年間の総利用者数は伸び悩んでいるが、施設利用者数は大幅に増加しており、アフターコロナにおいて地域コミュニティとして必要とされていることが窺われる。</p> <p>自主事業の洋ラン栽培・販売は堅調であるが、光熱水費と物価の高騰により、利益が確保できなかったため、早速収支改善に向けた新たな技術を取り入れ、今後は太陽光パネルと蓄電池を利用した光熱水費削減を模索するなど意欲を示している。</p> <p>今後も引き続き農業振興・地域住民の交流の場としての設置目的が十分発揮できるよう管理運営して頂きたい。</p>		
前年総合評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準：	S (優良)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含)	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善)	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S (優良)	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S (優良)	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 10)

公の施設の名称	尾道市千光寺山索道事業施設				
所在地	尾道市東土堂町20-1				
指定管理者	団体名	おのみちバス株式会社			
	所在地	尾道市東尾道18番地1			
指定期間	平成31年4月1日 ~ 令和6年3月31日				
選定方法	○	公募		非公募	
料金制導入区分	○	利用料金		使用料(市へ直接収納)	無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち		5 年目		
施設設置目的	千光寺公園への交通の利便を図ることにより、観光振興に寄与する				
主な実施事業	千光寺山ロープウェイの管理運営と維持管理				

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 利用人数	人	400,000	487,191	450,000	226,977	235,000	212,180	435,000	483,034	475,000	503,216	486,415	
②													
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A	0	0	0	0	0
	利用料金収入	B	132,217	62,689	58,621	195,033	193,612
	自主事業収入	C	2,832	2,443	883	854	742
	その他	D	0	0	2,875	0	0
	収入計(A~Dの計)	E	135,049	65,132	62,379	195,887	209,253
支出	指定事業費	F	94,831	63,633	71,072	162,566	161,242
	内、人件費	G	46,820	42,553	51,503	52,133	60,914
	内、修繕費	H	847	158	601	586	396
	内、再委託料	I	8,539	8,850	7,523	11,624	13,236
	内、施設使用料	J	30,000	0	0	79,336	65,000
	自主事業費	K	10,696	756	116	247	258
支出計(F+K)	L	105,527	64,389	71,188	162,813	161,500	
使用料収入(市へ直接収納)	M	0	0	0	0	0	
減免金額	N	171	28	38	171	153	
事業収支	E-L	29,522	743	-8,809	33,074	24,754	
利用料金収入比率	B/E	97.9%	96.2%	94.0%	99.6%	99.6%	
人件費比率	G/L	44.4%	66.1%	72.3%	32.0%	37.7%	
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
減免金額比率	N/*2	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明 (必要に応じて記述) 令和4年度から千光寺公園頂上エリアリニューアルに合わせて、条例改正により利用料金の改正を行ったことや、コロナ感染状況の落ち着きに伴う利用者の増加により、大幅な利用料金収入の増加があった。

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	S	S
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	S	S
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	S	S
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	S	S
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	S	S
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	S	S
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	S	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	S	A
安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	S	S	
	利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	S	S	
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	S	S	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設23項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	S	S
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接客が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	S	S
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数		12	回
	管理運営協議回数		12	回

所見 (成果、課題等)	(自己評価) コロナ禍の終息により、行動制限がなくなったため、多くの国内旅行者やインバウンド客の来尾により、令和5年度は、年間利用者数が50万人を突破する記念すべき年になりました。また、新展望台（PEAK）の完成により、人流に変化が見られるようになりましたが、正月、住吉花火、灯りまつりなど多客時にも大きな混乱を招くことなく、人員整理に努めました。自社イベントにおいては、千光寺公園のにぎわい空間の創出及び公園全体の回遊性向上を目的とした「謎解きイベント」を実施し、観光客はもちろん、地域住民の方にも好評を得ることが出来ました。安全対策においては、設備や備品を適切な時期に修理・交換することにより、運行中の故障や事故を引き起こすこともなく、年間を通じてお客様に安全安心を届けることが出来たと思っております。 次年度からは、これまで以上に「お客様の声」を運営に反映することにより、これまで以上に利用者満足度の向上に努めてまいります。		
	(所管評価) 令和5年度はコロナ感染症の5類への移行により観光客が回復し、各種イベントもほぼ制限なく実施されるようになり、コロナ禍前には達成できなかったことであるが、年度内利用者が開業以来初めて50万人を超えることとなった。こうした利用客の増加に対し臨時運行や行事やイベントに合わせた延長運行等を行う中で、適切な人員配置や機器のメンテナンスを行い安全に事故なく運行を維持できたことは評価できる。また、コロナ禍で中止していた自主事業を遅滞なく復活させ、実施することにより、閑散期での集客につながったものと思われる。今後も引き続き取り組むとともに、千光寺公園の魅力づくりと合わせて企画していく必要があり、関係者と一体となった活動を期待する。		
前年総合評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準：	S（優良）＝ 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。 A（良好）＝ 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。 B（課題含）＝ 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。 C（要改善）＝ 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S（優良）＝ 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。 A（良好）＝ 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S（優良）以外】 B（課題含）＝ 評価基準がすべてB以上である。【上記 S（優良）、A（良好）以外】 C（要改善）＝ 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S（優良）＝ 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。 A（良好）＝ 《総括》がすべてA以上である。【上記 S（優良）以外】 B（課題含）＝ 《総括》がすべてB以上である。【上記 S（優良）、A（良好）以外】 C（要改善）＝ 《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 11)

公の施設の名称	尾道市道の駅				
所在地	尾道市御調町大田33番地				
指定管理者	団体名	株式会社みつぎ交流館			
	所在地	尾道市御調町大田33番地			
指定期間	令和 2 年 4 月 1 日 ~ 令和 7 年 3 月 31 日				
選定方法	○	公募		非公募	
料金制導入区分	○	利用料金		使用料(市へ直接収納)	無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち		4 年目		
施設設置目的	地域間交流と各種情報の受発信及び地場産品の販売を通じて、交流人口の増加と産業の活性化を図り、魅力ある地域社会の形成に貢献するため				
主な実施事業	1) 広域的な交流を深める事業及びその事業を行うための場所の提供 2) 物産の展示、販売及び飲食物の提供 3) その他目的を達成するために必要な事業。				

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 来場者数	千人	330	300	240	248	261	283	300	302	310	301	310	
②													
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区 分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A	0	0	0	0	0
	利用料金収入	B	5,647	5,720	5,727	5,771	5,803
	自主事業収入	C	85,299	58,737	95,207	109,347	112,929
	その他	D	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
	収入計(A~Dの計)	E	92,446	65,957	102,434	116,618	120,232
支出	指定事業費	F	5,873	6,092	6,652	7,983	6,818
	内、人件費	G	1,232	1,260	1,260	1,260	1,263
	内、修繕費	H	475	266	461	963	254
	内、再委託料	I	0	0	0	0	0
	内、施設使用料	J	3,985	0	4,000	4,000	4,000
	自主事業費	K	82,196	66,887	95,483	102,422	107,782
支出計(F+K)	L	88,069	72,979	102,135	110,405	114,600	
使用料収入(市へ直接収納)	M	0	0	0	0	0	
減免金額	N	0	0	0	0	0	
事業収支	E-L	4,377	-7,022	299	6,213	5,632	
利用料金収入比率	B/E	6.1%	8.7%	5.6%	4.9%	4.8%	
人件費比率	G/L	1.4%	1.7%	1.2%	1.1%	1.1%	
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
減免金額比率	N/*2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A	
	利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A	
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設23項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数	6	回	
	管理運営協議回数	12	回	

所見 (成果、課題等)	(自己評価)		
	<p>R5年度は、道の駅全体の売上が前年度比100.6%、来場者数(レジ通過人数)が同99.7%という数字でした。飲食部門は好調でしたが、物産売店の客単価が課題となっています。コロナ禍において、道の駅は近場で家族単位(マイカー)で訪れやすいスポットとして、比較的ダメージが少なかった業態であったと思います。また、旅行支援策としてのお土産クーポンや自治体のキャッシュレスキャンペーンの恩恵もありました。しかしながらGW明けから感染症は5類に移行し、人の流れは海外を含め、今まで規制のあった人気の観光スポットに向かうようにもなりました。したがって、今後は益々目的地としての地位の確立に努めていかなければなりません。R5年度は、需要が高まっている冷凍食品の自動販売機(キャッシュレス決済対応)の設置を行いました。オリジナル商品の開発やECサイトの商品ラインナップの充実、イベントの企画など来場者の満足度アップを図っていきたく考えています。</p>		
	(所管評価)		
	<p>R5年度はコロナ禍からの脱却の初年度となったが、施設全体での来客数がR4年度に続きR元年度の水準を維持できたことは評価できる。 他の観光地と比べ外国人の来客数が伸びないため、もともとコロナ禍の影響が少ない分、コロナ禍後の来客数の変化が少ないことから、今後の誘客のために更なる新しいの取り組みが必要となってくる。 R6年度は県工事によるトイレの改修が予定されており、施設利用に制約が生じるが、改修にあわせた誘客の取り組みに期待したい。</p>		
前年総合評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準：	S (優良)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含)	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善)	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S (優良)	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S (優良)	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 12)

公の施設の名称	尾道市営住宅 (単市、特公賃住宅含め合計64施設)				
所在地					
指定管理者	団体名	堀田・誠和共同企業体 代表者 株式会社 堀田組			
	所在地	尾道市新浜一丁目9番22号			
指定期間	令和 3 年 4 月 1 日 ~ 令和 8 年 3 月 31 日				
選定方法	○	公募		非公募	
料金制導入区分		利用料金	○	使用料(市へ直接収納)	無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち		3 年目		
施設設置目的	国及び地方公共団体が協力して、健康で文化的な生活を営むに足る住宅を整備し、これを住宅に困窮する低額所得者に対して低廉な家賃で賃貸し、又は転賃することにより、国民生活の安定と社会福祉の増進に寄与することを目的とする				
主な実施事業	入居者管理に関する業務、設備の維持・保守・管理に関する業務、修繕に関する業務、その他左記に掲げる業務に付随する業務の管理運営				

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標		単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
①	家賃 (現年度+過年度分) 収納率	%	89.5	92.0	89.5	93.3								
②	家賃 (現年度分) 収納率	%					98.0	99.6	98.0	99.7	98.0	99.4	98.0	
③	駐車場使用料 (現年度分+過年度分) 収納率	%					99.0	99.9	99.0	99.9	99.0	99.8	99.0	
④														
⑤														

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区 分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A 70,480	67,730	73,970	74,470	75,470	74,970
	利用料金収入	B 0	0	0	0	0	0
	自主事業収入	C 0	0	0	0	0	0
	その他	D 0	0	0	0	0	0
	収入計 (A~Dの計)	E 70,480	67,730	73,970	74,470	75,470	74,970
支出	指定事業費	F 70,480	67,730	73,970	74,470	75,470	74,970
	内、人件費	G 14,880	14,880	16,800	16,800	16,800	16,800
	内、修繕費	H 55,600	52,850	57,170	57,670	58,670	58,170
	内、再委託料	I 0	0	0	0	0	0
	内、施設使用料	J 0	0	0	0	0	0
	自主事業費	K 0	0	0	0	0	0
支出計 (F + K)	L 70,480	67,730	73,970	74,470	75,470	74,970	
使用料収入 (市へ直接収納)	M 256,128	255,543	246,783	238,224	234,356	242,608	
減免金額	N 0	0	0	0	0	0	
事業収支	E-L	0	0	0	0	0	0
利用料金収入比率	B/E	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
人件費比率	G/L	21.1%	22.0%	22.7%	22.6%	22.3%	22.4%
使用料収入比率	M/*1	78.4%	79.0%	76.9%	76.2%	75.6%	76.4%
減免金額比率	N/*2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	—	—
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A	
	利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A	
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設22項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	—	—
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	—	—
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設7項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数	4	回	
	管理運営協議回数	12	回	

所見 (成果、課題等)	<p>(自己評価)</p> <p>尾道市市営住宅の指定管理者として、入居希望者の窓口として入居受付事務、入居者のみなさまからの申請事務等、各業務における均一かつ公平公正なサービスの提供は適正に行われたと思われま。令和6年1月には、能登半島地震が発生し、まちづくり推進課との連携により空き住宅を整備し被災者の受入れ体制を整えました。今年度は、明渡による空き家戸数が増加しており空家修繕工事による公募住宅の十分な確保ができなかった。修繕工事コストや修繕方法の見直しによる公募住宅の増加による入居率の向上と、その他ストック住宅の有効活用を踏まえた住戸内設備改修等についても注力して行きます。今後も、これまでの業務経験に加えて指定管理者制度の再確認と関係法令、事務処理要領に基づきハード面、ソフト面共により正確かつスピード感のある業務実施に取り組んで参ります。</p>		
	<p>(所管評価)</p> <p>市営住宅の指定管理者として11年目であり、業務を熟知した職員が配置され、入居者からの要望・相談等にも適切に対応されている。入居者に対するアンケートにおいても「大変良い」「良い」で9割近くを占めており、入居者の評価は高い。</p> <p>家賃等の収納率については、滞納者に対するこまめな対応など積極的な取組により、目標値を超えた高い収納率が達成できている。市主催の債権管理研修にも積極的に参加し、能力向上に努めていただいている。引き続き、滞納額の削減に向けた取組をお願いしたい。</p> <p>修繕業務については、指定管理者所属の技術者による対応により、迅速化・低廉化に取り組まれており、増加する空き家戸数についても民間のノウハウやアイデアを生かした入居率の向上に向けた取組をお願いしたい。</p>		
前年総合評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準：	S (優良)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含)	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善)	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S (優良)	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S (優良)	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 13)

公の施設の名称	尾道市因島アメリティプール			
所在地	尾道市因島大浜町57番地			
指定管理者	団体名	株式会社ベッセルテクノサービス		
	所在地	福山市南本庄三丁目4番27号		
指定期間	令和4年4月1日 ~ 令和9年3月31日			
選定方法	○	公募		非公募
料金制導入区分	○	利用料金		使用料(市へ直接収納) 無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち		2 年目	
施設設置目的	高い親水性を活かした市民及び来訪者のレクリエーション施設として設置されている			
主な実施事業	プールの管理運営。利用許可、利用料金の徴収			

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 入場者数	人	23,000	25,424	23,000	0	23,000	0	26,900	0	26,900	21,554	26,900	
② 利用料金収入+雑収入	千円	14,240	15,129	14,360	0	14,480	0	15,200	0	15,400	11,362	15,600	
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区 分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A 2,007	2,037	2,037	2,528	3,000	3,000
	利用料金収入	B 8,237	0	0	0	7,317	9,600
	自主事業収入	C 6,892	0	0	0	4,044	6,000
	その他	D 0	0	6	0	0	0
	収入計(A~Dの計)	E 17,136	2,037	2,043	2,528	14,361	18,600
支出	指定事業費	F 18,125	2,599	2,455	5,841	12,262	18,600
	内、人件費	G 7,843	1,020	1,060	1,020	4,926	7,300
	内、修繕費	H 145	0	52	2,493	117	500
	内、再委託料	I 856	519	238	587	812	1,020
	内、施設使用料	J 0	0	0	0	0	0
	自主事業費	K 0	0	0	0	0	0
支出計(F+K)	L 18,125	2,599	2,455	5,841	12,262	18,600	
使用料収入(市へ直接収納)	M 0	0	0	0	0	0	
減免金額	N 100	0	0	0	0	0	
事業収支	E-L	-989	-562	-412	-3,313	2,099	0
利用料金収入比率	B/E	48.1%	0.0%	0.0%	0.0%	51.0%	51.6%
人件費比率	G/L	43.3%	39.2%	43.2%	17.5%	40.2%	39.2%
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率	N/*2	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明 (必要に応じて記述) 3年ぶりに営業を再開した。新型コロナウイルス感染拡大以前の2019年と比較し利用者数・利用収入とも減少した。

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設23項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数		9	回
	管理運営協議回数		13	回

所見 (成果、課題等)	(自己評価) 新型コロナウイルス感染対策が5月に終了し3年ぶりに営業を再開した。 開園準備のため、植栽の剪定・除草作業については、定期的に除草・剪定作業を実施した。 併せて設備維持管理について、法定点検・月例点検も適正に実施した。 光熱水費の高騰を受け、不必要な電気はこまめに切るなど、節電に心がけた。		
	(所管評価) 利用者のニーズの把握に努め、直ちに対応可能なものは速やかに対応されている。また、老朽化により機器が故障した場合にも、機器の稼働方法を変更するなどし、休業することなく利用者の安全確保と満足度の向上が図られていた。 その他、天候等により目標の利用者数に満たないが経費の節減に努め収支のバランスを適切に保っている。		
前年総合評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準：	S (優良)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含)	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善)	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S (優良)	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S (優良)	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 14)

公の施設の名称	因島水軍城				
所在地	尾道市因島中庄町3228-2				
指定管理者	団体名	一般社団法人因島観光協会			
	所在地	尾道市因島土生町1899-31			
指定期間	令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日				
選定方法		公募	○	非公募	
料金制導入区分	○	利用料金		使用料(市へ直接収納)	無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち		3 年目		
施設設置目的	因島村上海賊の歴史・遺品を後世に伝えるため				
主な実施事業	入場料金の徴収、建物・周辺の維持管理。自主事業として企画展・特別展の開催				

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 入場者数	人	33,000	33,262	13,000	14,874	15,000	14,009	25,000	27,861	34,000	29,601	34,000	
②													
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区 分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A 3,734	3,769	3,100	3,100	3,100	3,100
	利用料金収入	B 8,401	4,015	3,820	7,681	8,261	9,500
	自主事業収入	C 141	48	48	119	141	150
	その他	D 0	0	0	0		
	収入計(A~Dの計)	E 12,276	7,832	6,968	10,900	11,502	12,750
支出	指定事業費	F 10,230	7,932	7,462	9,044	9,376	9,420
	内、人件費	G 4,287	3,425	3,254	3,494	3,695	4,180
	内、修繕費	H 399	197	458	307	420	220
	内、再委託料	I 1,323	1,161	1,123	1,382	1,263	1,320
	内、施設使用料	J 0	0	0	0	0	0
	自主事業費	K 967	140	275	98	107	110
支出計(F+K)	L 11,197	8,072	7,737	9,142	9,483	9,530	
使用料収入(市へ直接収納)	M 0	0	0	0	0	0	
減免金額	N 748	438	436	827	701	750	
事業収支	E-L	1,079	-240	-769	1,758	2,019	3,220
利用料金収入比率	B/E	68.4%	51.3%	54.8%	70.5%	71.8%	74.5%
人件費比率	G/L	38.3%	42.4%	42.1%	38.2%	39.0%	43.9%
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率	N/*2	8.2%	9.8%	10.2%	9.7%	7.8%	7.3%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	B	B
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	B	B
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設23項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数		7	回
	管理運営協議回数		14	回

所見 (成果、課題等)	<p>(自己評価)</p> <p>企画展・巡回展の年2回の特別展を実施し、村上海賊のPRに努めています。 昨年度より入場者数は増加しましたが、まだコロナ前の水準には達しませんでした。 来城者に喜んで頂けるような魅力ある施策を検討する必要があると思慮します。 建物の管理、植栽の整備に努め、恒例の年末のすず払いも継続して実施しています。 懸念としては、東屋の崩壊が進み危険ですし見た目も良くないので、早急に解決して頂けたらと思いま す。</p> <p>(所管評価)</p> <p>新型コロナウイルス感染症も5類へ分類が変更されたことにより、来城者については前年度より106%ま で回復している。本年度については「大浜埼灯台」が国の重要文化財に指定されることを受けた特別展示 などでさらなる取り組みにより来城者の増加を期待する。 なお、市定期監査により指摘を受けた「再委託の事前協議」等に関しては適正な運用が行われるように 指導を行った。</p>		
	前年総合評価	A	総合評価

※評価区分

評価基準：	S (優良)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含)	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善)	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S (優良)	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S (優良)	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 15)

公の施設の名称	因島漁船等巻揚施設			
所在地	尾道市因島土生町1752-12地先			
指定管理者	団体名	因島市漁業協同組合		
	所在地	尾道市因島土生町256-6		
指定期間	令和 2 年 4 月 1 日 ~ 令和 7 年 3 月 31 日			
選定方法		公募	○	非公募
料金制導入区分	○	利用料金		使用料(市へ直接収納) 無料施設
評価年度	指定期間	5	年のうち	4 年目
施設設置目的	漁船等の安全な操業と維持管理を図るために計画的な整備、補修等を行う場を提供し、漁業経営の安定等に資するため			
主な実施事業	巻揚施設の管理運営			

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 利用者数	人	200	153	200	140	200	135	200	126	200	130	200	
②													
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区 分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A	0	0	0	0	0
	利用料金収入	B	571	559	576	475	650
	自主事業収入	C	0	0	0	0	0
	その他	D	0	0	0	0	0
	収入計(A~Dの計)	E	571	559	576	475	650
支出	指定事業費	F	474	427	468	440	650
	内、人件費	G	0	0	0	0	0
	内、修繕費	H	474	427	468	440	650
	内、再委託料	I	0	0	0	0	0
	内、施設使用料	J	6	0	0	0	0
	自主事業費	K	0	0	0	0	0
支出計(F+K)	L	474	427	468	440	470	650
使用料収入(市へ直接収納)	M	0	0	0	0	0	0
減免金額	N	0	0	0	0	0	0
事業収支	E-L	97	132	108	35	60	0
利用料金収入比率	B/E	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
人件費比率	G/L	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率	N/*2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	—	—
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	—	—
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A	
	利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A	
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設21項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	—	—
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	—	—
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	—	—
利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A	
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設6項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数		3	回
	管理運営協議回数		4	回

所見 (成果、課題等)	(自己評価) 運営管理は、適切に処理しており利用者から良い評価を受けている。		
	(所管評価) 令和5年度は大きな修繕もなく、年間を通じて利用されている。 運営管理については適切に処理されている。		
前年総合評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準：	S (優良)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含)	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善)	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S (優良)	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S (優良)	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 16)

公の施設の名称	尾道ふれあいの里				
所在地	尾道市御調町高尾1369				
指定管理者	団体名	株式会社みつぎ交流館			
	所在地	尾道市御調町大田33			
指定期間	令和 2 年 4 月 1 日 ~ 令和 7 年 3 月 31 日				
選定方法	○	公募		非公募	
料金制導入区分	○	利用料金		使用料(市へ直接収納)	無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち		4 年目		
施設設置目的	宿泊研修、野外活動を通じて青少年の健全な育成を図るとともに、憩いと安らぎの場の提供等により青少年から高齢者まで各世代にわたる健康の増進を図り、もって住民福祉の向上に資するため				
主な実施事業	尾道ふれあいの里の管理運営。日帰り温泉・食事・宴会・宿泊・研修等				

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 入浴者数	人	100,000	104,510	36,000	62,570	65,000	79,074	80,000	89,243	95,000	99,737	100,000	
② 温泉宴会パック利用者数	人	2,500	1,532	600	191	200	252	300	798	1,000	1,918	1,500	
③ 日帰り宴会利用者数	人	5,250	4,728	700	322	350	329	450	842	1,000	1,546	1,200	
④ 宿泊者数	人	28,500	28,389	10,000	14,954	10,000	14,982	15,000	24,323	25,000	26,583	25,000	
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A	0	0	0	0	0
	利用料金収入	B	408,044	205,141	214,750	336,210	383,000
	自主事業収入	C	0	0	0	0	0
	その他	D	98	59,943	50,308	13,451	2,000
	収入計(A~Dの計)	E	408,142	265,084	265,058	349,661	384,737
支出	指定事業費	F	414,301	273,037	275,460	344,412	383,000
	内、人件費	G	162,619	123,956	112,056	119,406	128,000
	内、修繕費	H	6,226	3,379	4,209	4,738	6,000
	内、再委託料	I	44,475	25,919	27,225	31,120	30,000
	内、施設使用料	J	8,762	0	0	0	4,545
	自主事業費	K	0	0	0	0	0
支出計(F+K)	L	414,301	273,037	275,460	344,412	368,985	
使用料収入(市へ直接収納)	M	0	0	0	0	0	
減免金額	N	0	0	0	0	0	
事業収支	E-L	-6,159	-7,953	-10,402	5,249	15,752	2,000
利用料金収入比率	B/E	100.0%	77.4%	81.0%	96.2%	99.3%	99.5%
人件費比率	G/L	39.3%	45.4%	40.7%	34.7%	34.6%	33.4%
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率	N/*2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A	
	利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A	
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設23項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数	6	回	
	管理運営協議回数	12	回	

所見 (成果、課題等)	<p>(自己評価)</p> <p>令和5年度の売り上げにつきましては、コロナもほぼ終結し助成金も少ない中、サミットが開催されたことにより温泉・宿泊においては、ここ10年間で一番の売上を出すことができました。本年度は、経年劣化で壊れている箇所を修繕し、コロナ禍で減少していた従業員の補充をすることでより売上を伸ばせるよう努力致します。</p>		
	<p>(所管評価)</p> <p>令和5年度の施設利用者は前年度より、14,578人増（前年比112.7%）、売上は、45,350,888円増（前年比113.5%）となり、コロナの影響が少なかった令和元年度より、施設利用者は9,375人減（令和元年比93.3%）、売上は26,483,574円減（令和元年比93.5%）となった。自己評価に記載の通り、新型コロナウイルスの5類感染症の移行や、G7サミットの開催効果もあり、コロナ禍以前の状況に近づきつつある。令和5年1月から12月における広島県全体の観光客は、前年比146%（令和元年比107%）、宿泊客は前年比130%（令和元年比96%）となっており、広島県の利用客と比較すると低い水準であるものの、コロナ禍以前の実績の93%まで回復した。引き続き、感染症対策に努め、コロナ禍における利用者回復、従業員の安定的な雇用に向けた取組等が求められる。</p>		
前年総合評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準：	S（優良）	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A（良好）	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B（課題含）	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C（要改善）	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S（優良）	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A（良好）	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S（優良）以外】
	B（課題含）	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S（優良）、A（良好）以外】
	C（要改善）	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S（優良）	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A（良好）	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S（優良）以外】
	B（課題含）	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S（優良）、A（良好）以外】
	C（要改善）	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 17)

公の施設の名称	尾道市瀬戸田サンセットビーチ		
所在地	尾道市瀬戸田町垂水1506-15		
指定管理者	団体名	株式会社TM産業	
	所在地	尾道市瀬戸田町鹿田原35-5	
指定期間	平成31年4月1日 ~ 令和6年3月31日		
選定方法	○	公募	非公募
料金制導入区分	○	利用料金	使用料(市へ直接収納) 無料施設
評価年度	指定期間	5	年のうち 5 年目
施設設置目的	市民の福祉増進を図り、野外スポーツ活動及び海洋スポーツ活動を通じて、交流の場として地域の発展向上を目的とする		
主な実施事業	(1)サンセットビーチの施設及び広島県海岸環境整備事業に係る海浜施設(以下「附属施設」という。)の管理運営に関する事業 (2)野外・海浜スポーツレクリエーションの振興に関する事業 (3)その他設置目的達成に必要な事業		

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 施設利用者	千人	-	128	100	61	100	66.0	100	116	128	166	160	
② 海浜施設	千人	-	75	75	35	70	38	71	71	75	107	115	
③ 広場	千人	-	12	10	0	1	0.1	1	2.0	12	16	17	
④ 飲食	千人	-	13	13	7	10	7	10	16	13	18	19	
⑤ 物販	千人	-	5	7	4	4	3	3	6	5	7	7	

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A	18,167	18,333	18,333	18,333	18,000
	利用料金収入	B	4,144	2,767	2,850	3,602	3,659
	自主事業収入	C	21,675	17,930	18,880	29,991	35,465
	その他	D	2,553	3,008	3,689	2,895	1,848
	収入計(A~Dの計)	E	46,539	42,038	43,752	54,821	58,972
支出	指定事業費	F	24,032	21,940	27,183	33,023	34,100
	内、人件費	G	9,100	10,640	12,597	15,957	18,500
	内、修繕費	H	145	102	130	76	40
	内、再委託料	I	1,069	825	1,084	1,084	780
	内、施設使用料	J	0	0	0	0	0
	自主事業費	K	15,328	15,214	15,030	20,032	24,500
支出計(F+K)	L	39,360	37,154	42,213	53,055	58,600	
使用料収入(市へ直接収納)	M	0	0	0	0	0	
減免金額	N	116	29	23	124	169	
事業収支	E-L	7,179	4,884	1,539	1,766	-2,294	
利用料金収入比率	B/E	8.9%	6.6%	6.5%	6.6%	5.9%	
人件費比率	G/L	23.1%	28.6%	29.8%	30.1%	31.6%	
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
減免金額比率	N/*2	2.7%	1.0%	0.8%	3.3%	4.4%	

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A	
	利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A	
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設23項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接客が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	S	S
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数		24	回
	管理運営協議回数		24	回

所見 (成果、課題等)	<p>(自己評価)</p> <p>訪れてよかった、また訪れたいと思ってもらえる施設づくり・運営を目指して、施設の清掃作業・植栽管理を日々実施し、親切・丁寧な接客対応を行ったことで、多くの利用者が快適に利用いただけたと思います。</p> <p>全体の利用者は、4年ぶりにサンセットビーチで瀬戸田夏まつりが開催されたこと等により増えましたが、新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、アウトドアレジャーの人気の陰りの影響を受け、アクティビティの利用は以前の水準に達しませんでした。一方で円安の影響で飲食・売店はインバウンド利用者が増加しました。</p> <p>次年度は、マリンスポーツ事業をいつでも手軽に体験できるように充実させ、アクティビティ事業の活性化を図ります。</p>		
	<p>(所管評価)</p> <p>施設管理に関しては仕様書等を遵守し、おおむね適正に行われている。</p> <p>令和5年度の施設利用者数については、4年ぶりに開催された瀬戸田夏まつりの影響もあり、目標値の128千人を上回りコロナ禍以前の令和元年度を超え166千人となった。</p> <p>指定管理業務に係る収支状況については、飲食部門の収益増額は評価できる一方、施設利用収入や受託事業収入等の減額により赤字となった。</p> <p>施設利用者が増加しているにも関わらず、収入が低下しているため、年間を通じて訪れるサイクリング客のニーズを調査し、飲食であればメニューを増やしたりレンタサイクル窓口で案内するなど、客単価を上げる工夫・改善に努めてもらいたい。</p>		
前年総合評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準：	S (優良)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含)	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善)	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S (優良)	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S (優良)	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 18)

公の施設の名称	尾道市御調グラウンド・ゴルフ場				
所在地	尾道市御調町綾目1929番地1				
指定管理者	団体名	株式会社みつぎ交流館			
	所在地	尾道市御調町大田33			
指定期間	平成31年4月1日 ~ 令和6年3月31日				
選定方法	○	公募		非公募	
料金制導入区分	○	利用料金		使用料(市へ直接収納)	無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち		5 年目		
施設設置目的	グラウンド・ゴルフを通じて、住民の心と身体の総合的な維持及び増進に寄与するために設置する				
主な実施事業	尾道市御調グラウンド・ゴルフ場の管理運営				

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 入場者数	人	23,000	16,445	15,000	15,420	15,000	9,809	15,000	14,721	16,000	13,250	15,000	
② 年間券購入者数	人	280	201	200	249	200	103	200	200	220	175	200	
③ 用具貸出者数	人	1,100	1,193	1,100	572	800	606	800	828	800	687	800	
④ 身障者利用者数	人									900	697	800	
⑤ 市内高校生以下利用数	人									60	22	50	

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A	3,700	3,700	3,700	3,700	5,470
	利用料金収入	B	2,726	2,309	2,016	2,400	2,400
	自主事業収入	C	0	0	0	0	180
	その他	D	36	70	51	19	50
	収入計(A~Dの計)	E	6,462	6,079	5,767	6,119	8,100
支出	指定事業費	F	6,582	6,306	6,477	6,527	8,100
	内、人件費	G	0	0	0	0	0
	内、修繕費	H	62	40	47	0	250
	内、再委託料	I	6,520	6,266	6,430	6,527	7,850
	内、施設使用料	J	0	0	0	0	0
	自主事業費	K	0	0	0	0	0
支出計(F+K)	L	6,582	6,306	6,477	6,527	8,100	
使用料収入(市へ直接収納)	M	0	0	0	0	0	
減免金額	N	407	469	344	510	400	
事業収支	E-L	-120	-227	-710	-408	-1,066	
利用料金収入比率	B/E	42.2%	38.0%	35.0%	39.2%	29.6%	
人件費比率	G/L	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
減免金額比率	N/*2	13.0%	16.9%	14.6%	17.5%	15.8%	

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設23項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接客が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	B	B
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数	8	回	
	管理運営協議回数	4	回	

所見 (成果、課題等)	<p>(自己評価)</p> <p>コロナも明け、令和4年度より利用人数も増加するのではと期待していたが増加に至らなかった。減少の原因として令和5年度3月に御調町グラウンドゴルフ協会が人数不足のため解散したなども加味した上でグラウンドゴルフ人口の減少も1つの要因として考えられる。</p> <p>今後の利用人数、収益増加の改善策として、土日祝の利用者増加のために子供連れの家族をターゲットとして、割引券付きのチラシの配布を行いゴルフ場の周知及び新規顧客獲得を目指して動いています。</p> <p>また収益に関しても令和5年度までは御調協会が主で収益事業ではなかったが、協会が解散となり自社事業となったため今後は収益を出せる事業へと変化する予定です。</p> <p>以上の内容と平行して市内外の常連の利用者も引き続き確保するために大会運営、要望への対応、芝管理、施設の改善等など密に行い気持ちよく利用して頂く事に努めます。</p>		
	<p>(所管評価)</p> <p>協定書、仕様書等を遵守しており、要求水準を概ね満たしている。利用者数の伸び悩みや施設修繕の増加により、令和5年度事業収支では、前年度と比較して、マイナス額が大きくなっている。そのため、次年度収支の改善が課題である。</p> <p>令和6年度からは、指定管理者主催のグラウンド・ゴルフ定期大会の開催やファミリー層をターゲットにしたチラシを作成するなど、事業収支の改善に期待ができる。</p> <p>尾道ふれあいの里や道の駅と連携した企画を行うといった、株式会社みつぎ交流館ならではの事業に期待していきたい。</p>		
前年総合評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準：	S (優良)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含)	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善)	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S (優良)	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S (優良)	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 19)

公の施設の名称	尾道市長者原スポーツセンター			
所在地	尾道市高須町985-25			
指定管理者	団体名	公益社団法人尾道市シルバー人材センター		
	所在地	尾道市久保町1701-1		
指定期間	令和 2 年 4 月 1 日 ~ 令和 7 年 3 月 31 日			
選定方法	○	公募		非公募
料金制導入区分	○	利用料金		使用料(市へ直接収納) 無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち		4 年目	
施設設置目的	スポーツの普及振興により市民の健康づくりの増進を図るため			
主な実施事業	屋内運動場(アリーナ)、トレーニングジム、会議室、研修室、テニスコートの貸出業務及び自主事業としてヨガ教室			

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 施設利用料収入	千円	11,200	12,358	13,000	8,232	13,100	8,579	13,200	11,746	13,300	11,496	13,400	
② 利用者数	人	72,000	88,141	92,000	31,789	92,000	44,570	92,000	58,303	92,000	73,857	92,000	
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A 11,489	10,501	10,501	10,501	10,501	10,501
	利用料金収入	B 12,058	8,035	8,433	11,456	11,267	14,600
	自主事業収入	C 300	197	147	290	229	400
	その他	D 1,112	547	561	1,009	646	500
	収入計(A~Dの計)	E 24,959	19,280	19,642	23,256	22,643	26,001
支出	指定事業費	F 25,150	18,628	21,264	23,573	23,306	25,601
	内、人件費	G 9,123	7,597	9,166	9,948	10,461	10,616
	内、修繕費	H 2,071	110	522	469	773	1,295
	内、再委託料	I 3,838	3,816	4,181	3,643	3,822	4,159
	内、施設使用料	J 0	0	0	0	0	0
	自主事業費	K 264	234	174	294	301	400
支出計(F+K)	L 25,414	18,862	21,438	23,867	23,607	26,001	
使用料収入(市へ直接収納)	M 0	0	0	0	0	0	
減免金額	N 1,296	172	661	857	853	0	
事業収支	E-L	-455	418	-1,796	-611	-964	0
利用料金収入比率	B/E	48.3%	41.7%	42.9%	49.3%	49.8%	56.2%
人件費比率	G/L	35.9%	40.3%	42.8%	41.7%	44.3%	40.8%
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率	N/*2	9.7%	2.1%	7.3%	7.0%	7.0%	0.0%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

シルバー人材センターの中期目標の数値に基づき令和6年度予算を編成した。

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設23項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	B	B
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数		20	回
	管理運営協議回数		4	回

所見 (成果、課題等)	<p>(自己評価)</p> <p>施設の老朽化により改修を必要とする箇所が多く出てきているが、限られた予算の中で優先順位をつけながら必要な改修を行い、利用者に安心・安全な施設運営に努めたい。</p>		
	<p>(所管評価)</p> <p>協定書及び仕様書に基づき、利用者にとって安心安全な施設運営に努めていただいた。ただし、施設の老朽化により不具合が多く発生しており、指定管理者だけでは、対応が困難なケースもあった。引き続き、指定管理者及び施設所管課で情報共有し、必要な修繕に取り組んでいきたい。施設所管課としては、大規模修繕を実施できるよう、予算確保等に取り組んでまいりたい。</p> <p>施設の利用料金がわからないといった問い合わせが多いので、ホームページ等を活用いただき、施設の積極的な広報活動をお願いしたい。</p>		
前年総合評価	B	総合評価	A

※評価区分

評価基準：	S (優良)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含)	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善)	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S (優良)	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S (優良)	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 20)

公の施設の名称	尾道市マリン・ユース・センター				
所在地	尾道市向島町立花3035-3				
指定管理者	団体名	尾道市マリン・ユース・センター共同企業体			
	所在地	東京都千代田区内幸町1丁目1番1号			
指定期間	令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日				
選定方法	○	公募		非公募	
料金制導入区分	○	利用料金		使用料(市へ直接収納)	無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち		3 年目		
施設設置目的	青少年の健全育成及び海洋性レクリエーションの普及並びに海事思想の普及を図るため				
主な実施事業	キャンプ場、アリーナ、売店運営、艇庫利用、施設管理・運営				

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① アリーナ利用者	人	10,000	8,568	10,000	7,582	10,000	4,674	10,000	6,140	10,000	7,257	10,000	
② キャンプ利用者	人	10,500	8,191	10,500	4,702	10,000	5,670	10,000	6,890	10,000	6,661	10,000	
③ 艇庫利用者	人	900	285	900	0	900	15	900	163	900	184	900	
④ 全体利用者数	人	23,400	17,044	23,400	12,284	35,000	41,645	45,000	52,183	55,000	54,887	55,000	
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区 分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A	9,966	10,031	11,800	11,800	11,800
	利用料金収入	B	3,778	3,190	2,917	4,407	4,359
	自主事業収入	C	2,547	891	1,011	5,221	5,479
	その他	D	142	142	0	0	0
	収入計(A~Dの計)	E	16,433	14,254	15,728	21,428	21,638
支出	指定事業費	F	14,906	14,954	16,249	17,143	17,889
	内、人件費	G	10,365	10,417	8,118	11,370	9,443
	内、修繕費	H	25	156	39	127	89
	内、再委託料	I	859	743	3,564	1,633	1,485
	内、施設使用料	J	0	0	0	0	0
	自主事業費	K	649	174	864	4,606	4,246
支出計(F+K)	L	15,555	15,128	17,113	21,749	22,135	
使用料収入(市へ直接収納)	M	0	0	0	0	0	
減免金額	N	62	48	86	87	140	
事業収支	E-L	878	-874	-1,385	-321	-497	
利用料金収入比率	B/E	23.0%	22.4%	18.5%	20.6%	20.1%	
人件費比率	G/L	66.6%	68.9%	47.4%	52.3%	42.7%	
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
減免金額比率	N/*2	1.6%	1.5%	2.9%	1.9%	3.1%	

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	B	B
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A	
	利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A	
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設23項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接客が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A	
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数	20	回	
	管理運営協議回数	5	回	

所見 (成果、課題等)	(自己評価)		
	<p>インストラクター研修に関して、初年度は開催されず、2年目はクラスター発生により途中辞退、3年目は参加予定者が腰痛により参加見送り、4年目に関しては資格取得マストで望む。マルシェやオリジナル商品展開、ワークショップの実施、SNSでの定期的な発信により、新たな利用者へと獲得ができていますので、引き続き積極的に自主事業を展開していき、キャンプ、アリーナの利用者増に励む。小さい子供の利用者の為に、授乳スペースの作成や、アリーナでのキッズスペースの作成など実施することで、利用者からの感謝の言葉がたくさん寄せられているので、引き続きより気持ちよく利用していただけるような施設の管理・運営をしていきたい。</p>		
	(所管評価)		
	<p>指定管理3年目を迎え、売店の充実や自主事業イベントの開催など、これまでの積み重ねが少しずつ形になってきたように思う。引き続き、施設の魅力向上に取り組んでいただきたい。 また、これまでの懸案であったB&Gインストラクター資格についても、令和6年度中に取得見込となった。インストラクター資格を取得いただき、マリンスポーツ体験会の開催など尾道市におけるマリンスポーツの拠点施設となるよう、施設の管理運営に取り組んでいただきたい。</p>		
前年総合評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準：	S (優良)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含)	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善)	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S (優良)	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S (優良)	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 21)

公の施設の名称	尾道市瀬戸田町B&G海洋センター				
所在地	尾道市瀬戸田町林19-5				
指定管理者	団体名	特定非営利活動法人フレンド・シップせとだ			
	所在地	尾道市瀬戸田町瀬戸田535-1			
指定期間	平成31年4月1日 ~ 令和6年3月31日				
選定方法		公募	○	非公募	
料金制導入区分	○	利用料金		使用料(市へ直接収納)	無料施設
評価年度	指定期間	5	年のうち	5	年目
施設設置目的	「青少年の健康育成及びスポーツレクリエーション振興」を行うため				
主な実施事業	施設運営管理。体育館、プール利用者の受付業務。B&G主催の各大会。健康体操教室、水泳教室、アクアビクス教室、吹矢教室、ウォーキング、水の安全教室、BGまつりなどの事業の開催				

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 体育館稼働率	%	50	33	50	37	50	30	50	38	50	40	50	
② 体育館利用者人数	人	15,000	12,737	15,000	10,119	15,000	7,117	15,000	11,244	15,000	11,128	15,000	
③ プール利用者人数	人	5,500	5,184	5,500	681	5,500	465	5,500	763	5,500	2770	5500	
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算	
収入	指定管理料	A	8,035	8,109	8,109	8,109	8,786	
	利用料金収入	B	839	660	394	717	800	
	自主事業収入	C	1,184	95	69	490	280	
	その他	D	96	44	30	35	54	
	収入計(A~Dの計)	E	10,154	8,908	8,602	9,351	8,827	9,920
支出	指定事業費	F	9,941	8,324	7,892	9,392	9,716	9,800
	内、人件費	G	3,884	3,860	3,706	3,928	5,489	5,500
	内、修繕費	H	90	167	147	108	117	120
	内、再委託料	I	1,746	984	1,032	1,434	259	260
	内、施設使用料	J	0	0	0	0	0	0
	自主事業費	K	1,423	127	149	666	111	120
支出計(F+K)	L	11,364	8,451	8,041	10,058	9,827	9,920	
使用料収入(市へ直接収納)	M	0	0	0	0	0	0	
減免金額	N	200	221	230	369	431	300	
事業収支	E-L	-1,210	457	561	-707	-1,000	0	
利用料金収入比率	B/E	8.3%	7.4%	4.6%	7.7%	6.8%	8.1%	
人件費比率	G/L	34.2%	45.7%	46.1%	39.1%	55.9%	55.4%	
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
減免金額比率	N/*2	19.2%	25.1%	36.9%	34.0%	41.8%	27.3%	

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	B	B
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A	
	利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A	
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設23項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接客が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数	8	回	
	管理運営協議回数	4	回	

所見 (成果、課題等)	(自己評価)		
	<p>10年目の運営となった。コロナウイルス感染症も落ち着き、安心して通常の施設運営が出来るようになった。高齢化、人数不足により定期の施設使用団体や利用回数が減少して、体育館の稼働率は思ったより増えなかった。自主事業では小学生水泳教室、小学生のバレーボール大会（B&G杯）、プールでのカヌー体験も行えるようになった。経費の面では電気代、水道代の値上げによる影響が多く、苦勞した。減免団体になる資格をどの施設でも統一して、無意味な減免金額が減少し施設運営ができるようにすることが課題である。引き続き、情報発信をして、利用者が利用しやすい、そして安全に利用できるように管理、運営していきたい</p>		
	(所管評価)		
	<p>協定書及び仕様書に基づき、安心安全な施設運営に努めていただいた。一方で、B&Gインストラクター資格者の不在が課題である。仕様書に記載されている資格の取得に向け、施設所管課及び指定管理者が連携し、取り組んでまいりたい。</p> <p>また、市監査委員会事務局の監査時に指摘のあった、利用料減免の範囲が過大である件についても、双方協議の上、今後の方針を決定してまいりたい。</p> <p>今後、人口減少により、利用者の減少する恐れがあるが、ホームページやSNSを活用して、施設情報を積極的に発信し、新たな利用者の獲得に努めていただきたい。</p>		
前年総合評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準：	S（優良）	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A（良好）	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B（課題含）	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C（要改善）	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S（優良）	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A（良好）	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S（優良）以外】
	B（課題含）	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S（優良）、A（良好）以外】
	C（要改善）	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S（優良）	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A（良好）	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S（優良）以外】
	B（課題含）	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S（優良）、A（良好）以外】
	C（要改善）	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 22)

公の施設の名称	尾道市向島運動公園			
所在地	尾道市向島町11098番地289			
指定管理者	団体名	一般社団法人尾道市体育協会		
	所在地	尾道市向島町11098番地289		
指定期間	令和 2 年 4 月 1 日 ~ 令和 7 年 3 月 31 日			
選定方法		公募	○	非公募
料金制導入区分	○	利用料金		使用料(市へ直接収納) 無料施設
評価年度	指定期間	5	年のうち	4 年目
施設設置目的	スポーツの普及振興、市民の体力向上、会議研修の会場提供を目的とする			
主な実施事業	キッズスポーツ体験教室、体育祭、記念グラウンド・ゴルフ大会等			

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 利用料金収入	千円	7,901	7,186	8,062	6,870	7,436	5,500	7,436	7,072	7,181	7,614	7,400	
② 自主事業収入	千円	440	725	1,180	512	855	699	430	370	440	408	440	
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区 分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A 21,192	21,117	21,117	21,117	21,117	21,117
	利用料金収入	B 7,186	6,869	5,500	7,072	7,615	7,400
	自主事業収入	C 725	512	699	370	408	440
	その他	D 1,641	925	778	984	894	1,001
	収入計(A~Dの計)	E 30,744	29,423	28,094	29,543	30,034	29,958
支出	指定事業費	F 29,499	28,140	26,776	29,569	30,040	32,606
	内、人件費	G 9,472	8,582	8,394	9,396	10,052	11,160
	内、修繕費	H 744	1,173	810	770	670	800
	内、再委託料	I 11,141	10,244	9,828	9,453	9,641	10,123
	内、施設使用料	J 0	0	0	0	0	0
	自主事業費	K 523	368	592	207	218	252
支出計(F+K)	L 30,022	28,508	27,368	29,776	30,258	32,858	
使用料収入(市へ直接収納)	M 0	0	0	0	0	0	
減免金額	N 987	415	394	708	549	654	
事業収支	E-L	722	915	726	-233	-224	-2,900
利用料金収入比率	B/E	23.4%	23.3%	19.6%	23.9%	25.4%	24.7%
人件費比率	G/L	31.6%	30.1%	30.7%	31.6%	33.2%	34.0%
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率	N/*2	12.1%	5.7%	6.7%	9.1%	6.7%	8.1%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設23項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数		12	回
	管理運営協議回数		6	回

所見 (成果、課題等)	<p>(自己評価)</p> <p>収入面では、職員の努力に加え、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きを見せ始めたこともあり、令和5年度はコロナ禍前の平成30年度を超える施設利用収入を達成することができた。自主事業も瀬戸田町B&G海洋センターと連携し、新たに水辺の安全教室を実施した。</p> <p>一方、支出面では、電気代の値上げの影響を、職員の節約及び国の補助により最小限に抑えたが、値上げ前と比較すると支払額が大幅に増えている。</p> <p>環境美化については、利用者が気持ちよくスポーツを楽しめるように職員全員が努力しているが、予算の関係で施設の修繕には相当な時間を要する場合も生じている。</p> <p>今後は、施設の稼働率をさらに上げることが課題である。</p> <p>なお、この事業評価票の数字では表されないが、指定管理に係る協定に基づくB&G財団との連絡調整、各種事業等への参加も積極的に行い、また、昨年度に引き続き、広島県地域海洋センター連絡協議会の事務局としても、その業務に尽力した。</p>		
	<p>(所管評価)</p> <p>協定書及び仕様書に基づき、安心安全な施設運営に努めていただいた。今後、ホームページやSNSを活用して、利用者の更なる拡大を図っていただきたい。</p>		
前年総合評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準：	S (優良)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含)	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善)	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S (優良)	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S (優良)	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	《総括》にCが1つでも含まれる。

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 23)

公の施設の名称	尾道市立図書館及び尾道市芸予文化情報センター		
所在地	尾道市東久保町4番1号ほか		
指定管理者	団体名	NTTグループ・啓文社・新和ビルサービス共同企業体 代表企業 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	
	所在地	東京都江東区豊洲三丁目3番3号	
指定期間	令和2年4月1日 ~ 令和7年3月31日		
選定方法	○	公募	非公募
料金制導入区分	○	利用料金	使用料(市へ直接収納) 無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち 4 年目		
施設設置目的	図書、記録その他必要な資料を収集し、整理保存して一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資すること		
主な実施事業	図書館業務(カウンター業務、資料整理/管理業務、移動図書館車業務、相互貸借、行事/事業など)、施設及び設備の維持管理業務、自主事業の運営(物販、自動販売機など)		

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 入館者数(全館)	人	530,429	536,404	580,000	370,442	364,685	308,375	-	-	-	-	-	-
② 貸出点数(全館)	点	800,000	832,773	860,000	775,992	540,740	635,430	807,000	784,408	807,000	783,193	807,000	-
③ 利用者満足度	%	86.0	94.0	90.0	94.0	90.0	93.0	90.0	92.7	90.0	94.2	90.0	-
④ 電子図書館 貸出点数	点	-	-	-	-	-	-	53,000	53,198	53,000	42,583	53,000	-
⑤ 賑わい創出のためのイベント	回	-	-	-	-	-	-	550	575	550	621	550	-

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算	
収入	指定管理料	A	185,475	195,758	192,061	194,061	191,854	
	利用料金収入	B	727	92	655	687	860	
	自主事業収入	C	945	610	431	598	1,081	
	その他	D	0	0	0	0	0	
	収入計(A~Dの計)	E	187,147	196,460	193,147	195,346	194,800	193,795
支出	指定事業費	F	187,126	196,362	193,054	195,201	194,654	193,649
	内、人件費	G	84,769	92,369	92,287	92,268	92,285	92,524
	内、修繕費	H	2,743	1,995	1,923	2,000	2,000	20,000
	内、再委託料	I	23,769	23,732	25,078	27,299	27,348	29,321
	内、施設使用料	J	0	0	0	0	0	0
	自主事業費	K	21	98	93	145	146	146
	支出計(F+K)	L	187,147	196,460	193,147	195,346	194,800	193,795
使用料収入(市へ直接収納)	M	0	0	0	0	0	0	
減免金額	N	0	0	0	0	0	0	
事業収支	E-L	0	0	0	0	0	0	
利用料金収入比率	B/E	0.4%	0.0%	0.3%	0.4%	0.5%	0.4%	
人件費比率	G/L	45.3%	47.0%	47.8%	47.2%	47.4%	47.7%	
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
減免金額比率	N/*2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

評価項目	評価基準	自己評価	所管評価	
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
	緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A
		緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A
		緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設23項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数	12	回	
	管理運営協議回数	8	回	
	(自己評価)			

<p>所見 (成果、課題等)</p>	<p>【成果】・協定書に従い施設・設備を適切に管理し、法令に基づいた運営を行うことが出来た。 ・令和5年5月8日よりコロナ感染症が5類に移行したことに伴い、図書館では通常の業務を心掛け、イベントも増加するようにした結果、入館者増となった。(参考)入館者数は、令和4年度375,445人から令和5年度397,138人へ21,693人の増加。 ・光熱水費は世界的な情勢により高騰しているが、空調温度を時間ごとにこまめに調整するなど電気や水道・ガスの省エネ対策の徹底や中央図書館へのLED導入の結果、昨年度の光熱水費を15%(約358万円)下回った。 【課題】 ・コロナ禍においては電子図書館の需要が高まったが、令和5年度はコロナ感染症が5類に移行し需要が落ち着いた。今後は、市の公式LINEなどのSNSを活用した周知や電子図書館の特集ページの工夫により利用促進を啓発していきたい。</p> <p>(所管評価)</p> <p>貸出点数は、目標値には届いておらず、前年度と比較して減少しているが、入館者数は増加しており、賑わい創出のためイベント回数を増やし、来館者が訪れたいくなるような工夫がなされていた。電子図書館については、新規書籍が増えておらず、貸出点数は減少しているが、前年度に引き続き市内小・中学校の児童・生徒を中心に多くの方に利用していただくことができた。また、利用者の満足度は指定管理期間の1期目から通算して9年間、高い水準を維持しており、評価に値する。</p>		
<p>前年総合評価</p>	<p>A</p>	<p>総合評価</p>	<p>A</p>

※評価区分

<p>評価基準：</p>	<p>S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。 A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。 B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。 C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。</p>
<p>《総括》：</p>	<p>S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。 A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】 B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】 C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。</p>
<p>総合評価：</p>	<p>S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。 A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】 B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】 C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。</p>

令和 5 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設 (施設No. 24)

公の施設の名称	平山郁夫美術館			
所在地	尾道市瀬戸田町沢200-2			
指定管理者	団体名	公益財団法人平山郁夫美術館		
	所在地	尾道市瀬戸田町沢200-2		
指定期間	令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日			
選定方法		公募	○	非公募
料金制導入区分	○	利用料金		使用料(市へ直接収納) 無料施設
評価年度	指定期間	5	年のうち	3 年目
施設設置目的	平山郁夫の作品及び作品に関する資料を収集し、保管し、併せて美術に関する普及活動及び情報活動を行い、もって教育・文化の振興を図る			
主な実施事業	平山郁夫の絵画を中心に館内、館外で展覧会を開催し、併せて美術品や取材資料を公開している。平山郁夫の画業に関するセミナーや講演会を開催している。広く一般や子供を対象にした絵画教室や、絵画コンクールを実施している。美術館に親しんでいただくため、シルクロードに因んだ音楽を中心に館内にてコンサートを開催している			

2 利用状況 (目標と実績)

成果指標	単位	目標	R元年度	目標	R2年度	目標	R3年度	目標	R4年度	目標	R5年度	目標	R6年度
① 入館者数	人	55,000	56,671	50,000	23,061	57,000	23,655	40,000	43,900	60,000	40,535	50,000	
②													
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位: 千円)

区 分		R元年度決算	R2年度決算	R3年度決算	R4年度決算	R5年度決算	R6年度予算
収入	指定管理料	A	0	0	30,000	25,000	30,000
	利用料金収入	B	38,663	15,801	15,410	32,707	37,908
	自主事業収入	C	86,095	30,403	34,839	84,261	49,734
	その他	D	1,305	10,219	11,073	9,871	2,643
	収入計(A~Dの計)	E	126,063	56,423	61,322	156,839	108,184
支出	指定事業費	F	61,213	48,866	58,140	101,760	78,231
	内、人件費	G	23,404	21,925	22,350	28,230	31,823
	内、修繕費	H	81	89	3,493	89	153
	内、再委託料	I	0	0	0	0	0
	内、施設使用料	J	0	0	0	0	0
	自主事業費	K	52,106	27,874	27,549	38,647	34,675
支出計(F+K)	L	113,319	76,740	85,689	140,407	107,759	
使用料収入(市へ直接収納)	M	0	0	0	0	0	0
減免金額	N	1,261	524	720	1,392	1,300	1,300
事業収支	E-L	12,744	-20,317	-24,367	16,432	425	5,084
利用料金収入比率	B/E	30.7%	0	0	20.9%	28.5%	30.8%
人件費比率	G/L	20.7%	28.6%	26.1%	20.1%	29.5%	27.5%
使用料収入比率	M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率	N/*2	3.2%	3.2%	4.5%	4.1%	4.0%	3.3%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

平山郁夫の絵画を中心に展覧会を開催し、併せて美術品や取材資料を公開している。平山郁夫の画業に関するセミナーや講演会を開催している。広く一般や子どもを対象とした絵画教室や絵画コンクールを実施している。美術館に親しんでいただくため、館内にて朗読会やコンサートを開催している。

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
①実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目/本施設23項目】	A	A	
②サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目/本施設9項目】	A	A	
③安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《参考》施設所管課のみ	実地調査回数	4	回	
	管理運営協議回数	5	回	

所見 (成果、課題等)	<p>(自己評価)</p> <p>令和5年度の入館者は40,535人となり、令和4年度と比べ7.7%の減でしたが、年度末に向けて入館者数は回復し、12月から3月までは前年を上回っています。入館者が減少している要因の一つに団体入館者の減がありコロナを境に旅行形態も少し変わりつつあると認識しております。また画伯が亡くなられて14年が経過し、その足跡を知る人が高齢化する一方で、若年層との接点が希薄化したほか、文化財赤十字構想等、画伯の画業を知る機会も少なくなっている事も要因の一つと分析しております。収支は424千円の黒字となり、公益事業の赤字を収益事業で補填した構造になっております。教育普及事業、社会教育事業につきましては尾道市内の浄土寺、東広島ちゅービーカルチャーセンター、広島大学、福山日中友好協会でのコロナのまん延防止から中断していたセミナーの再開。第17回平山郁夫美術館賞絵画コンクールも2,873点の応募がありました。広島大学インターンシップ受け入れ、美術館コンサート、スケッチコンペ、日本画教室も例年通り開催しております。公益事業につきましては一部変更がありましたほぼ計画通り実施しております。</p>		
	<p>(所管評価)</p> <p>令和5年度は、前年度からコロナ禍による規制が緩和されたことによる回復基調を維持している。コロナ禍により中断していた各種セミナーの再開を果たすなど教育普及事業にも力を入れ、各方面との連携強化により集客増を図るなど、健全な運営に向けた努力は大いに評価できる。魅力的な展覧会の開催により来館者の増加に取り組むとともに、教育普及事業や絵画コンクールの継続的な開催、デジタル技術の活用により、美術に親しむきっかけづくりや、新たな鑑賞者の育成に繋がることを期待する。収益事業も昨年度に引き続き順調に運営されており、さらなる売り上げの向上に向けた取り組みに期待する。</p>		
前年総合評価	A	総合評価	A

※評価区分

評価基準：	S (優良)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好)	=	協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含)	=	協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善)	=	協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》：	S (優良)	=	評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価：	S (優良)	=	《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好)	=	《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含)	=	《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善)	=	《総括》にCが1つでも含まれる。